



CoC 非公式シナリオ斉投稿企画
「エウリュの召した蚤の市」参加作品

目次

TABLE OF CONTENTS

01. はじめに	01		26
02. シナリオについて	01		27
03. シナリオ背景	01		29
04. KP向け補足情報	02		31
05. 登場 NPC	03		34
06. シナリオチャート	04		36
07. PL向け事前情報	05		39
08. プロローグ	06		43
09. 深海へ	07		44
10. マキア	09		45
	11		47
	13		48
	14		49
	17		50
	19		50
	19		50
	22		50
	24		50
25. クレジット・注意書き			51

01. はじめに

この度は当シナリオをお手に取っていただき、ありがとうございます。

こちらはクトゥルフ神話 TRPG(6版) 対応シナリオとなります。

このシナリオは、サプリメント『クトゥルフ 2015』に記載されている選択ルールを使用している箇所がございます。サプリメントをお手持ちでない方向けに簡易的な処理方法を定めていますが、こちらは本シナリオオリジナルの措置となりますので、他のシナリオの継続等で探索者を使用する場合は都度キーパーへ十分な確認を取ってください。

難易度改変はご自由どうぞ。

また、このシナリオには、オリジナルの神話生物やアーティファクトの登場、ならびに神話生物に対する独自解釈があります。ご了承ください。

シナリオ内の記号

□ : 技能ロール

■ : 探索項目

略字一覧

KP : キーパー

PL : プレイヤー

PC : 探索者

RP : ロールプレイ

AF : アーティファクト

基本 : 基本ルールブック

MM : マレウス・モンストロルム

このシナリオ内では、コラムにキーパー向けの補足情報を掲載しています。キーパリングのヒントとして参照してください。

02. シナリオについて

プレイ人数 : 1人

プレイ時間 : 4~6時間

舞台 : 現代日本(東京)

推奨技能 : <知識技能> ※ただし <知識 /2> で代用可能

探索者条件 : 特徴表「暗黒の祖先」採用可能な探索者であること

反転のあるあなたへ。

自立型無人深海探査艇「しおさい」の持ち帰った未知の物質が、水族館で一般公開された。あなたは、そのうちの「深海のローレイ」と呼ばれる、水中で振動を発する石を見ている。

「メイデイ。メイデイ。この歌が聴こえる子らよ、どうか私に会いに来て」

水槽の表面を不規則なリズムで揺らすその振動は、あなたにはそう聴こえるけれど。

03. シナリオ背景

人類はかつてより未踏の領域に挑み続け、次々と掌握してきた。過酷な雪と氷をいただく山嶺、圧倒的な暗闇に沈む深海、時間さえも追いつくのを許さない宇宙、……挑む先は物理的な存在にとどまらない。いつからか、その対象は宇宙的恐怖、冒瀆的な神話群にまで向けられていった。人類は少しずつ旧支配者やその奉仕種族などによる人間社会への侵攻に抵抗し、次第に退けることができるようになっていく。

あるときには、大洋の恐怖「オトゥーム」がルルイエ浮上とともに目覚めたが、とある抗神組織によって撃退された。傷つけられたオトゥームは抗神組織から逃れよう

と北上したが、マリアナ海溝の海域でついに息絶える。その遺骸は海底奥深くまで沈み、チャレンジャー海淵の底へと行き着いた。

また別のときには、クトゥルフのイドの意識である「コラジン」が地上への顕現を試みたが、これも人類によって阻まれる。しかし、通常であれば消散するはずだったコラジンは、ルルイエへ送り返される途中でオトゥームの遺骸に漂着し、偶然にも生き永らえた。

オトゥームの遺骸と衰弱したコラジンは共生関係を結び、新しい神話生物「マキア」が誕生した。マキアは再び地上への侵攻と復活を目指し、地上に今もなお残る「神話事象をその身に宿す者」たちへ向けて信号を発しはじめる。大いなるクトゥルフが見た旧支配者としての地球の景色を、取り戻すために。

その後、チャレンジャー海淵を訪れた深海探査艇「しおさい」によってマキアの一部はサンプルとして採取され、「深海のローレライ」という名前で地上への帰還を果たす。やがてマキアが展示品として一般人の前にすがたを現し、しばらく経つ頃。探索者は「暗黒の祖先」という特徴を持つために「神話事象をその身に宿す者」として、マキアの信号を受け取ることになるだろう。

【関与する神話事象】

- ・オトゥーム
(MM p.150)
- ・コラジン
(MM p.163)
- 『銀の鍵』
(キーパーコンパニオン p.54)

04. KP 向け補足情報

深海のローレライ / Lorelei of Bathy

深海探査艇「しおさい」によって採取された、石に似た未知の物質。その正体は人間によって退けられ、チャレンジャー海淵の底で朽ち果てたオトゥームの遺骸の一部である。衰弱したコラジンが漂着して共生関係を結ぶようになる過程で骨のように硬化して、マキアの歌声を物理的に届ける楽器のような役割を果たしている。

フルデプス羅針盤 / Full-Depth Compass

本シナリオオリジナルアーティファクト。フルデプスとは海洋の最深部を意味する言葉であり、世界最深点まで潜れる潜水船のことを「フルデプス潜水船」と呼ぶことから名づけられている。

古道具屋「此其彼堂」で入手できるアーティファクトであり、探索者がマキアのもとへ旅行するために必要なアイテム。ただし、最初から十分に使える訳ではなく、今回の探索者の用途に合わせて修理と改良が必要となる。

移動に用いられる『銀の鍵』をモデルに設計されているが、制作者、製造年はともに不明。

此其彼堂 / KOSOADO

さまざまな魔術道具や神話的事情を抱える物品を取り扱う古道具屋。大正時代から続く老舗であるが、取扱い商品の性質上一般にはあまり知られていない。

探索者が店主の「阿笠勿勿」とともに「フルデプス羅針盤」を修理、改良するための場所になる。神話的事象にも詳しい情報を調べることのできる場所であり、探索者がマキアの正体を考察するのに役立つだろう。

ディエティア広場 / Deitia Squire

特定の時代や場所に留まらず存在する広場。

石畳に洋風の建築物が立ち並ぶ景観であるため、近代以前のアジア圏では不可思議な場所として認識されることだろう。

露店や店舗が並んでおり、どうやら市場が開かれているらしい。

(CoC 一斉投稿企画「エウリュの召した蚤の市」共通設定より)

本シナリオにおいては「フルデプス羅針盤」の修理や改良を目的に訪れる場所であり、探索者はディエティア広場でさまざまな人物と交流をする。

05. 登場 NPC

マキア / Macchia

自律型無人深海探査艇「しおさい」が持ち帰ってきた未知の物質「深海のローレイ」を通じて、探索者へ向けて声を発し続ける謎の生命体。その正体はオトゥームの遺骸と共生関係を築いたコラジンが新しい神話生物として成り立った存在である。

地上への旧支配者としての復活を目指して歌い続け、やがて探索者へ信号を届けるに至った。その力のはかつてのコラジンだった頃と比べると非常に衰弱しており、信号を受け取ることのできる者は探索者を含む一部の者、神話事象をその身に直接宿している者だけだ。

マキアはイタリア語で「斑点のある」という意味を持つ。オトゥームとコラジンの共生関係によって成り立っているいびつに混じりあった性質を理由に名前として選ばれた言葉だ。

阿笠勿勿 / AKASA Tana

STR:9 CON:4 POW:8 DEX:17 APP:10 SIZ:12 INT:21 EDU:14

(さまざまな AF や呪文によりステータスの消耗や増強が行なわれている)

性別: 男性 職業: 古道具屋「此其彼堂」店主

さまざまな魔術道具や神話的事情を抱える物品を取り扱う古道具屋「此其彼堂(こそあどう)」の店主。探索者と同じく「暗黒の祖先」を特徴に持つ者であり、水族館でマキアの信号を受け取ってからは探索者と行動をとる。

エウリュ / Eury

ディエティア広場にいる謎の人物。

キャスケット帽に白金の瞳が特徴的で、中性的な印象をしている。広場について詳しいようだが、異国から来た者なのか未知の言葉を話すため、会話はままならない。

(CoC 一斉投稿企画「エウリュの召した蚤の市」共通設定より)

本シナリオではディエティア広場の案内人として登場し、探索者へ手書きの地図を用意する。探索者の目的をすぐに汲み取り協力するが、どこまで事情を見透かしているのかも、探索者に協力する真意も、シナリオ内では明かされない。

ディエティア広場の人物たち

さまざまな事情でディエティア広場を訪れている人物たち。探索者と交流し、必要な手助けをしてくれる。本シナリオで登場する人物たちの多くは、CoC 一斉投稿企画「エウリュの召した蚤の市」参加作品に登場する NPC たちだ (詳細はクレジット参照)。

06. シナリオチャート

本シナリオは大まかに以下の流れで展開する。

マキアとの出会い

- ・水族館でマキア、阿笠勿勿と出会う
- ・探索者が声を失い「マキアに向き合う」ための動機を得る
- ・阿笠勿勿とともに羅針盤の修理を目的に行動を開始する

羅針盤を巡る交流

- ・此其彼堂で羅針盤の修理やマキアへの考察を進める
- ・ディエティア広場で部品や情報を収集する
- ・日常生活のなかでマキアに関する情報を収集する

エンディング分岐

- ・フルデプス羅針盤を使わず日常へ帰還する……エンド「番人はいない」
- ・フルデプス羅針盤を使い、単独で帰還する……エンド「番人を厭わない」
- ・フルデプス羅針盤を使い、マキアと深海で共生する……エンド「番人とは言わない」
- ・フルデプス羅針盤を使い、マキアと地上で共生する……エンド「番人はいない」

07. PL 向け事前情報

探索者について

このシナリオでは、探索者に対してサプリメント『クトゥルフ 2015』の選択ルール「特徴表」に記載されている内容のうち「暗黒の祖先」に相当する設定の付与が必須となる。サプリメントを所持している場合は 17 ページから 19 ページを参照し、探索者の作成や選定に活用すること。

また、サプリメントを所持していない場合は探索者に下記の簡易処理を設定する必要がある。ただしこれは本シナリオオリジナルの措置となるため、他のシナリオの継続等で探索者を使用する場合は都度キーパーへ十分な確認を取ること。

暗黒の祖先 (本シナリオオリジナル簡易版)

探索者は何らかの宇宙的恐怖にまつわる一族やクリーチャーの子孫である。とは言っても普段の生活や外見特徴などは一般人と何ら変わりはないし、探索者本人が先祖について知らなくてもよい。

上記いずれかの設定を採用可能、または既に採用している探索者であれば、新規・継続を問わず本シナリオで遊ぶことができる。

シナリオ事前情報

探索者はシナリオ開始時点で、「深海のローレライ」と呼ばれる未知の物質を鑑賞するために東京都内の水族館へ向かうことになる。そのため、探索者は現代日本での活動が問題なく行なえて、ある程度の好奇心や行動力を有する人物像であることを推奨する。

深海のローレライ

海洋の世界最深部とされる「チャレンジャー海淵」から深海探査艇によって持ち帰られたサンプルのうち、未知の材質で構成された石のような物質。まるで何かの骨のように海底へ突き刺さっていたというその物質は、水中で不規則に振動を発生し周囲の海流へ影響を与えていたという。今までのどんな探査結果にも残っていないこの新発見は、最近の各種メディアを大いに賑わせている。

08. プロローグ

自律型無人深海探査艇「しおさい」が浮上してから、1ヶ月後のこと。

探査艇の所有機関である国際海洋研究開発センターが、東京都内の水族館にて「しおさい」の探査結果の一部を一般公開すると発表した。

自律型無人深海探査艇「しおさい」は、地球にある海洋の最深部である「チャレンジャー海淵」の探査を目的として深海へ挑んだ探査艇だ。そして、深海でとある不可解な発見をしたのだと、メディア各種は取り上げている。

それは、未知の材質で構成された石のような物質だった。

まるで何かの骨のように海底へ突き刺さっていたというその物質は、水中で不規則に振動を発生し周囲の海流へ影響を与えていたという。「しおさい」はこの物質の一部を回収しての帰還に成功した。しかし、回収と同時に撮影された映像は激しい乱れが発生しており、「しおさい」の計器類も一時的に機能へ不具合を起こしていたと運転記録に残っている。今回「しおさい」が帰還を果たしたのは奇跡的な出来事だと、専門家はカメラに向かって深いため息をついていた。

これらの特徴から、発見された不可解な物質は「深海のローレイ」と呼ばれ、今回の探査結果一般公開の目玉となっている。

今日、あなたはそんな深海の神秘を見に、水族館を訪れていた。

「メイデイ。メイデイ。この歌が聴こえる子らよ、どうか私に会いに来て」

その歌声をあなたが耳にするのは、もう少しあとの話。

09. 深海へ

あなたは水族館の入館チケットを手に、暗く落ち着いた照明の空間へと足を踏み入れる。水族館はそれなりの人で賑わっていて、今回の特別展示品のなかでも目玉となっている「深海のローレライ」は展示スペースのなかで最も奥のほうに飾られているようだ。せっかくだから目的の展示物へ向かうまでの展示品をゆっくり見てもよいだろう。

《探索可能：展示パネル、深海から採取されたサンプル、映像記録》

探索 - 展示パネル

特別展示スペースの入口付近には、深海という場所についておおまかな説明が掲示されている。

『最も身近な世界の最果て 深海へようこそ』

深海……特に水深 6,000 メートルから 11,000 メートルの領域を指す超深海帯。一切の光が届かないその場所に、あなたはどのようなイメージを抱くでしょうか。

たとえば、世界最高峰の山とされるエベレストの標高は 8,849 メートル。その高みへ足跡を残した登頂者は 9,000 人を超えており、高度 10,000 メートル以上の宇宙空間にも、じつに 560 人を超える人々が到達しています。その一方で、海洋の世界最深部とされる「チャレンジャー海淵」の深さ 10,920 メートルまで潜った人間の数は、わずか 13 人。深海という暗黒の世界は、わたしたちのすぐ近くにある、わたしたちの日常から最も遠い場所のひとつです。

暗く、つめたく、過酷な静寂の世界。

深海といえば、そんなイメージを持つ方も多いのではないでしょうか。しかし、実は海の底では、頻繁な海流の乱れや堆積物の土砂崩れ、海底火山の噴火など、さまざまなできごとに満ちています。そして、高い水圧、太陽光の欠如、乏しい食料……そんな厳しい環境のなかで進化して生命のサイクルを巡らせる、わたしたちの想像をはるかに超えた生物たちで賑わっているのです。

今回、国際海洋研究開発センターは新たに開発した自律型無人深海探査艇「しおさい」による第 1 回目の深海探査を行ない、海洋の世界最深部とされる「チャレンジャー海淵」からさまざまなサンプルを持ち帰ることに成功しました。

深海からもたらされた数々の神秘を、どうぞご覧ください。

探索 - 展示パネル

さまざまな海水や泥がガラスの容器に収められ、丁寧にラベルが貼られていた。さらにそれぞれの容器の横には深海のどのあたりで採取したものであるかとか、含まれている成分についてだとか、細かく説明されている。

〈地質学〉または〈知識 /2〉

成功

特別展示の事前情報では「深海のローレイ」は水中で不規則に振動を発生していたとあった。しかし「深海のローレイ」付近の地点と、離れた地点とでそれぞれ採取した堆積物や海水の内容に大きな違いは見られず、振動の原因はわかっていないようだ。

実際にあなたの知識と照らし合わせて確認しても、採取されたサンプルそれぞれに目立った違いは見当たらない。海底火山の活動や地殻変動といった、原因として学術的に考えられる要素はどこにもなさそうだ。

失敗

特別展示の事前情報では「深海のローレイ」は水中で不規則に振動を発生していたとあった。しかし「深海のローレイ」付近の地点と、離れた地点とでそれぞれ採取した堆積物や海水の内容に大きな違いは見られず、振動の原因はわかっていないようだ。

探索 - 映像記録

深海探査艇「しおさい」の撮影した数々の映像記録が、壁面に並べられたディスプレイから繰り返し流されている。次第に青色を濃く暗くして、真っ黒に沈みゆく海の色。そんな暗黒の背景に浮かび上がる、発光するクラゲや深海魚。生き物と呼ぶことすらためらうような奇妙な造形のごめくものたち。

それらの映像のなかでも特に目を引くのは、やはり「深海のローレイ」が撮影された記録だ。映像の乱れが激しく、かろうじて判別できる箇所には、何か巨大な生物の骨に見える輪郭と、その周囲に散らばる砂煙やちいさなごみの群れが映っていた。

〈生物学〉または〈知識 /2〉

成功

映像記録で確認できる巨大な生物の骨に見える輪郭に対して違和感を抱く。海底には「げいこつせいぶつぐんしゅう鯨骨生物群集」といって、沈んだ鯨の遺骸を中心に形成される生態系がある。映像記録はそれに似ている形状を撮影しているが、鯨の骨とは異なる特徴をしているように見えた。それどころか、あなたの知識をもってしても判断の難しいほどに、この世の生物とは思えない特徴が散見される。この遺骸の元のすがたは、一体何なのだろう。

失敗

映像記録で確認できた輪郭はとても大きく、鯨の骨のようにも見える。映像記録のそばにある説明文には「げいこつせいぶつぐんしゅう鯨骨生物群集」という、沈んだ鯨の遺骸を中心に形成される生態系と似ているのははっきりとは分かっていない、と書かれていた。

すべての探索を終えたら、
[10. マキア]へ移行

10. マキア

展示品の数々を追っていくうちに、やがてあなたは「深海のローレイ」の前までたどり着いた。

そこであなたの視界が捉えたのは、幅 40 センチ程度の水槽に沈められた月白色の物体。細長い、角笛のようにも見えるシルエットの、石とも骨とも言い切れない何か。その他には何も入れられていないはずなのに水面は不規則に波を打ち、まるで振動しているような……まさに、水中でその物質が歌を歌っているような、そんな印象を抱く。

……いや、本当に、歌っている。あなたはなぜだか、そう感じた。

「メイデイ。メイデイ。この歌が聴こえる子らよ、どうか私に会いに来て」

歌が、聴こえるのだ。目の前の水槽の内側から。

あなたの耳に、水を打たれるような感覚が走った。「深海のローレイ」がまぶたをもたげ、あなたを見つめて、くちを開いた。そうとしか表現できない声が、はっきりと聴こえるのだ。〈正気度喪失 1/Id3〉

ローレイの呼び声

「メイデイ。この歌が、聞こえる？ ね。聞こえるでしょう、君。君だよ。それから、君。二人の子らよ。私はマキア、まだら模様の君の遺伝子の夢。聞こえるでしょう、私の歌が」

他に自分と似た反応をする人がいないか探す

「深海のローレイ」展示スペースのすぐ近くで、自分と同じような反応で水槽を凝視している一人の青年が目に入る。向こうもこちらに気づいたのか、一瞬迷うように視線をさまよわせてから、あなたへ声をかけてきた。

「ねえ、もしかして……きみも、あの水槽から声が聞こえている人？」

▷ [■ 遺伝子の共鳴] へ

遺伝子の共鳴

あなたが頷くのであれば、青年は自分たちの身に起きたことが幻聴でないことに落胆した表情を見せる。その間も、あなたと、おそらく青年にも、すがたの見えない歌うような声は届き続けていた。

男性 (阿笠勿勿) との会話

あなたは誰？

「阿笠って呼んで。はあ……今日こそはまともな休日を過ごせると思ったのに……」

「僕はあの『深海のローレイ』の入っていた水槽の水面が揺れだした直後、正体のよくわからない声が聞こえるようになったんだけど、きみはどうだい」

声が聞こえる原因について

「展示コーナーでの反応を考えると、あの時に謎の声を聞いたのは僕ときみの二人だけみたいだ。他の人たちとの違いは何だろう……」

[KP 情報]

現状に対する知識量は探索者とそう変わらないが、神話的知識には長けているためマキアの話を書くことで今後の方針を考案することができる。

探索者のことは数少ない同類として見ており、できる限り協力関係を築こうとする。

「マキアの話の仮に信じるのであれば、……ひとつ、思い当たるものがある。きみ、このあと時間空いているかな。もしよければ、きみを此其彼堂^{こそあどう}という場所へ招待したい」

此其彼堂^{こそあどう}について

「僕の経営している古道具屋なのだけれど、取り扱っている商品が少し特殊でね。オカルト系というか、……うーん、とにかく変わったものばかりなんだ。それこそ、マキアと似た性質のもの」

「ここよりも落ち着いて話ができると思うし、マキアについても何とかしないと面倒だろう？」

深海のローレイ (マキア) との会話

あなたは何者？

「マキア。耳ざわりがよくて私の名前に選んだ、斑点のある、という意味らしい」

「私自身は深海でいまだまどろみにいるけれど、ほら、私の一部が連れ去られたから、それを伝って、ここまで歌っているんだ。人間はええっと、ロマンチックだと言うだろう、こういうの。うふふ！ 喜びたまえよ」

「さて、私は名乗った。だから君も名乗るべきだ。君のことは何て呼べばいいの」

不思議な歌声の聴こえかたについて

「どうにも私の力が弱っているみたいで、限られた者にしか歌を届けられないみたいだ。君と、それから、君。ね、ふたりの遺伝子は私の歌と共鳴して、歌の意味を受け取っているみたい」

「それは人間とほんの少し違う、暗黒の遺伝子さ。ほんのわずかでも君に存在するまだら模様の染色体が、私の歌を聴いているんだ」

歌を歌っている理由

「最初に呼びかけていた通りだよ。私のもともまで、会いに来てほしいんだ」

「うつらうつらしていたら、私の一部がこんなに賑やかな場所へ連れてこられたのだから。それなら、人間というものに私だって、会ってみたいじゃないか」

マキアに会う方法

「実際に私の眠る場所まで来てもらえればそれに越したことはないけれど、どうにも私の一部を連れ去った連中のあの騒がしさを見ると、生身の人間がここに来るとするのはだいぶ難しいようだし……ああ、幸い、私は夢にまどろむ存在だから。私のもともまで夢を伝えてくる方法が人間にあれば、よいのだけれど。どう？」

「ふふ、君たちだけが、私の歌を理解している。だから、会いに来てくれるまで歌い続けるよ。ずうっと、ね。だって、他にやることもないのだから」

[KP 情報]

基本的に遠慮や礼儀を知らず、探索者たちへどんどん話しかける。

自身の正体について核心的なこと以外はおおよそ話すし、自分のもとへ会いに来てほしいと何度でも頼み込む。ちなみに、探索者が拒絶したり無視したりしてもつきまとい続ける。

[KP 情報]

マキアの歌声は、コラジンだった頃の力によって探索者と阿笠勿勿のもとへ届けられている。本来のコラジンであれば自身の周囲に存在する人間全員へ精神的な接触をするのだが、マキアは衰弱している上にもとの性質から変容した状態であるため、自身と接点のある「神話事象をその身に宿す者」にしか影響をおよぼすことができない。

此其彼堂へ移動するのであれば [11. 来訪] へ移行

25. クレジット・注意書き

本シナリオの無断転載および複製、二次配布、インターネット上へのアップロードを禁止します。

シナリオを元にした派生物(リプレイ、小説、イラスト等)はシナリオのネタバレに配慮し、皆様の快いTRPGプレイングにご協力をお願い致します。

本シナリオを使用したことで発生した問題について、作者は一切の責任を負いません。ご了承ください。

本シナリオの内容はフィクションであり、実在する人物、団体、事件等は一切関係ありません。

[制作]

七篠 K

[Special thanks]

非公式 CoCWeb アンソロジー企画『エウリュの召した蚤の市』参加作品より
(順不同・敬称略)

NPC 「カエデ」茶々丸 | 「煙魔らゑんら」

<https://matumarul232.booth.pm/items/4762468>

NPC 「アルパ」つぎのわむく | 「爛爛 - 二人のための間奏曲 - The lost song」

<https://tukimeguri.booth.pm/items/4667224>

NPC 「ローズマリー」合歓(灰色羊 lab.) | 「オブスキュラ妖精譚」

<https://greysheep lab.booth.pm/items/4768050>

NPC 「黒」「白」みつんぱ | 「されど人の世の常なら」

<https://mitsun88.booth.pm/items/4729985>

NPC 「商人」幸仏荘 | 「キボウノテウルギア」

<https://yukibotokesou.booth.pm/items/4769047>

NPC 「巡 白妙」結井ななきそ | 「海綴じ」

<https://denebola.booth.pm/items/4770283>

NPC 「エウリュ」 島野おにく (企画キービジュアル担当)

本作は、「株式会社アークライト」及び「株式会社 KADOKAWA」が権利を有する『クトゥルフ神話 TRPG』の二次創作物です。

Call of Cthulhu is copyright (C)1981, 2015, 2019 by Chaosium Inc. ;all rights reserved.
Arranged by Arclight Inc.

Call of Cthulhu is a registered trademark of Chaosium Inc.

PUBLISHED BY KADOKAWA CORPORATION

SPLL : EI19233